



1 都市盛衰原因論

ジョヴァンニ・ボテロ Giovanni Boero (1544-1617) 石黒盛久＝訳

聖職者、政治学者。ピエモンテに生まれる。ボッロメーオ枢機卿およびサヴォイア公に仕え、イエズス会の情報網を用いて世界各国の政治・経済について研究を重ねた。武力による領土拡大を重視する当時隆盛のマキャヴェッリの国家論に対抗して執筆された本書「都市盛衰原因論」は、都市の繁栄＝人口増大の要因を地理的条件と政治政策の中に探りながら、国土は小さいが、他国と共存し経済活動によって繁栄するという新たな自由貿易主義的「帝国」の像を示し、後のスペインやイギリス等の海洋帝国の出現をも予言した傑作である。

2 詩作論

トルクアート・タッソ Torquato Tasso (1544-1595) 村瀬有司＝訳

詩人。ソレントに生まれる。フェラーラのエステ宮廷で活躍するが、その後はイタリア各地の君主・貴族のもとを転々とし、最後はローマにて死去する。タッソは第一回十字軍の事績を歌った代表作「エルサレム解放」を執筆するかわら、英雄詩の創作技法を探索した。その最初の成果である本書「詩作論」は、英雄詩の題材、構成、修辞技法を明晰に論じた佳作であり、タッソの技法（アルテ）に対する考え方、当時のイタリアにおける文学的潮流、さらには西洋文化において重要な意義をもつ模倣と想像の問題にかんしても重要な示唆を与えるものである。

3 哲学詩集

トマーズ・カンパネッラ Tommaso Campanella (1568-1639) 澤井繁男＝訳

詩人、自然哲学者、魔術師、占星術師。ステイロに生まれる。青年時代に哲学者アレイジオの学説に心酔し、またガリレイの知遇を得て近代自然科学の洗礼を受けるが、異端の疑義をかけられることとなる。スペイン帝国の苛政にたいする蜂起を企図して逮捕され、三十年近い獄中生活強いられる。度重なる拷問に耐えながら、獄中では多くの書を執筆した。本書「哲学詩集」は末期ルネサンス文化を飾る記念的作品で、獄中のかれが本来的に詩人であり、詩に「外」の世界へのメッセージをたくしていたことがわかる。「正義」を訴え、「虚偽」をたゞす人倫の詩集としても、往時の倫理の有様がつかえて興味深い。

4 宮廷生活

ビエトロ・アレティーノ Pietro Aretino (1492-1536) 栗原俊秀＝訳

詩人、劇作家。アレツツォに生まれる。諷刺詩、騎士物語、劇作品、書簡集等を物した「ボリグラフォ」(雑文家)であり、「ルネサンス期イタリア喜劇」の分野におけるもっとも重要な書き手の一人。レオ十世の宮廷に入りして経験を積み、辛辣な諷刺に満ち溢れた喜劇「宮廷生活」を執筆する。人文主義の知と貴族の洗練が結びついた「宮廷」の権威を、滑稽な登場人物たちの愚かなさげによって徹底的に貶め、笑いの対象に変えた本作は、ルネサンスにおけるパロディや諧謔の文化を窺い知る上でも、さわめて有益な一篇と言えるだろう。

5 書簡集

ガリレオ・ガリレイ Galileo Galilei (1564-1642) 小林満＝訳

自然哲学者、天文学者、数学者。ピザに生まれる。ピザ大学とパドヴァ大学で数学教授を務めた後、トスカーナ大公付き数学者兼哲学者に任ぜられる。望遠鏡による月面の起伏や木星の衛星の発見、太陽黒点の観測等、数々の天文学的偉業を成し遂げ、その成果を著書「星界の報告」や書簡を通して発表した。本書では彼の浩瀚な書簡のうち、天文学的発見を報告したもの、科学と宗教の関係を説明したもの、その他、当時の代表的知識人宛の書簡を収録し、ガリレイの知的活動の軌跡を立体的に浮かび上がらせる。

6 人間の生について

マルシリオ・フィチーノ Marsilio Ficino (1433-1499) 河合成雄＝訳

人文主義者、哲学者。フィリーネに生まれる。司祭およびプラトン・アカデミーの字頭として活躍し、ボッティチェッリ、ダ・ヴィンチ、ミケランジェロに思想的影響を及ぼした。その著書のなかでも、とりわけ印刷技術の発達とともにルネサンス以降爆発的に読まれた書物の一つが「人間の生について」である。三巻構成の本書では、それぞれ健康維持、長寿、星辰と人間との関係が論じられている。「魂の医者」と自称していたフィチーノ独特の、医学・植物学から占星術・魔術に至るまでの見解が包含されており、一見、混沌として見えるルネサンスの思想の恰好の入門書にもなりうるだろう。

イタリアルネサンス文学・哲学コレクション 全6巻

